



のぎわっ子

令和5年度学校だより
磐田市立東部小学校
令和5年11月10日

今年の秋は、夏の名残がいつまでも続くような暖かな日が続いています。10月末の運動会は、インフルエンザのまん延時期と重なり大変心配をしましたが、秋晴れの空の下、予定通り実施することができました。ホームページでも、運動会の様子を紹介しましたので、ぜひお時間のあるときにお子様と一緒に御覧ください。

子どもたちの体調管理や日頃の励ましなど、御家庭での御協力をいただき、本当にありがとうございました。



さて、のぎわっ子は、引き続き充実した学年の行事や活動に楽しく、精一杯取り組んでいます。学校教育目標「夢をもち みんなと学ぶ たくましい子」に向け、体も心も知的好奇心もぐんぐん伸びて大きくなっています。秋の夜長・・・ぜひ、御家庭でも、学校での出来事やがんばりなど、お子さんのお話を聞いてあげてください。

令和5年度 広島平和記念式典に参加して

夏休みに、6年生の山田颯稀さんが、本校から磐田市代表として磐田市の広島平和記念式典に参加しました。10月の会礼で発表した感想を御紹介します。

ぼくは、8月5日・6日に東部小の代表として広島へ行き、平和記念式典に参加してきました。今日は、平和祈念式典に参加して、戦争や平和について学んだことや考えたことを、全校のみなさんにお伝えします。一人一人が平和について考えることができるいいと思います。

ぼくは、先生から、「東部小の代表として、広島平和記念式典に参加したい人！」と聞かれたときに、真っ先に行きたくなりました。なぜかと言うと、それまでは、「広島は爆弾が落とされた町」くらいしか知らなくて、もっと戦争について知りたい、戦争の本当の苦しさ、悲しみ、また核兵器の恐ろしさ、そして平和とはどんなことなのかを学びに広島へ行きたいと思いました。みんなにも学んだことを伝えたいと思いました。そして、ぼくは代表に選んでもらって、広島に行くことになりました。

8月5日に広島に行って、最初に原爆ドームを見てきました。ぼくは、この建物を見て「こんなにも大きな建物を骨組みが見えるまで吹き飛ばしてしまうなんて」と思い、戦争の怖さを改めて知りました。その原爆ドームは当時、広島県物産陳列館という場所で、広島の特産物などが飾ってあったそうです。

その次に見学したのが、「原爆の子」の像です。そのモデルとなった子が佐々木さだ子さんという人で12歳という若さで白血病という病気でなくなったそうです。さださんは「千羽鶴を折ると病気が治る」と信じ、1000羽以上折りましたが、病気は治らず、12歳で亡くなりました。ぼくは、千羽以上つるを一人で折るなんて、それだけ「死にたくない」「生きたい」という思いが強かったんだと思いました。



次に見学したのは、安田女子学校です。その高校の歴史などを知り、被爆桜という、原爆が落とされても生き残っている桜を、今でも増やす活動があることを知りました。

そして、最後に平和記念式典へ参加し、平和の誓いの言葉を聞いてきました。

(誓いの言葉は省略)

広島を見学したり、誓いの言葉を聞いたりして、僕は、平和とは身近にあり、自分でも作れるし、広げられるものなんだな、と思いました。一人一人が平和を作り、広げられる東部小学校になればいいな、と思いました。そして、「平和とはなにか」を伝え、残していくという活動がなければ、平和は続かないと考えました。

最後に、これからの生活に生かしたいことは、広島で学んだ「平和は自分で作れる」ということを忘れず、けんかなどがあっても、平等に考え仲良くするなど、日常生活に「平和」を作っていくことです。

東部小のみなさん、平和は身近にあります。自分で作れるものです。身近に平和を作って安心して楽しく過ごせる東部小にしていきましょう。これで発表を終わります。

校長の話

貴重な体験ができた山田さん、記念式典で感じた平和への思いが、のびわっ子全員の心に伝わりました。

こんにちは。

さきほど、6年生の山田颯稀（やまだ りゅうき）さんの話を聞いて、平和について、どのように考えましたか。平和は身近にある、平和は自分でつくれる、よさを見つけること、違いを認め合うこと、相手の気持ちを考えること、いじめをしないこと、安心して生活できるようにお互いに考え行動していきましょう。



さて、来週末は、いよいよ運動会ですね。今年は高学年の皆さんに運動会で行いたい種目を聞いたところ、リレーを行いたいということから、4年生5年生6年生のリレーが行われます。

リレーというと、今から約20年前の東部小6年生を思い出すことがあります。磐田市の小学校の6年生が全員、かぶと塚にある磐田市陸上競技場に集まり、陸上競技大会があったころの話です。予選を行い、上位8校の記録に入ると8チームでの決勝へ進めます。

いよいよスタート。第1走者はすばらしい速さでした。そして、第2走者へのバトンパスのとき、なんと、出した手に当たったバトンが空中を飛び、バトンを落としたわけです。それを見た瞬間、大人の何人かが「終わったあ」と思ったり声にだしたりしました。目標は優勝でしたからなおさらです。

しかし、リレーメンバーは、誰もあきらめていませんでした。最下位から必死に前のチームを追いました。一人一人が0.1秒でも速くという思いで走り、さらに、6年生のあきらめない応援もすばらしく、その後、練習通りのバトンパスで最下位からゴールでは、3位ぐらいになっていました。そして、全体7位の記録で決勝へ出ることができました。

決勝ではどうなったと思いますか。バトンパスを修正し、東部小学校チームは、見事優勝しました。決してあきらめることなく全力で走ったりリレーメンバー、決してあきらめることなく声の限り応援した6年生、代表で走る人はもちろん、応援する人の力の大きさも強く感じた出来事でした。

さて、今年の運動会。徒競走でもリレーでも、走る前から、あの人は速い、あの組は速いとあきらめることなく、だれかのせいにするのではなく、自分が0.1秒でも速く走るように頑張れば、目標を達成したり、ゴールの接戦で少しでも順位をあげたりできるかもしれません。それを力いっぱい応援することも大きな力になります。

気持ちを一つに、あきらめることなく力いっぱい頑張りましょう。

「一致団結、歴史をきざむ スタートライン」(R5 運動会スローガン)

徒競走でもリレーでも東部小の目標の一つである「自らの思いを

もって、粘り強く取り組む子」を目指しましょう。以上で話を終わります。



運動会での子どもたちは、校長先生の願いのようになんげり・粘り強さを見せてくれました。